

街頭で認知症への理解を啓発

美作大学

地域の暮らしを支える人材を育成する美作大学（岡山県津山市）。9月18日、同大の生活科学部社会福祉学科で学ぶ学生がJR「津山」駅において、認知症への理解を訴える街頭啓発活動を行った。

同活動は津山アルツハイマーデー実行委員会（本部・同）が主催。9月21日の世界アルツハイマーデーに合わせて実施された。民生委員、津山市地域包括センターなどから約20人が参加し、通勤・通学の駅利用者に対して啓発用のチラシとティッシュの約350セットを手渡した。認知症に関しての正しい理解を呼びかけた。

同大からは教員と共に7人の学生が参加し、そのうちの3人が実行委員として活動の中核を担った。街頭に立って活動することが初めての学生が少なくなかったため、はじめは緊張していた様子だったが、終盤には通学途中の高校生等に積極的に声



多くの通勤・通学者に積極的に声をかけ啓発

かけを行っていた。

また、9月23～27日にかけて、同学科の学生が同大の正面玄関を認知症支援のシンボルカラーであるオレンジ色に装飾しライトアップを行った。学生、教職員共にオレンジ色のTシャツを着用して認知症への理解と支援を訴えた。

学生からは「津山市には現在、約8,580人の認知症の方がいます。私たちの活動で少しでも認知症への理解が広がり、認知症患者にとって優しい社会になって欲しい」と、活動に対する思いを語った。